

「学びの教室」

駒本小学校特別支援教室直通電話 3827-5575 (ファクシミリ兼用)

通信

感覚処理の特性への対応

子ども達によく見られる感覚処理の特性は、3つのパターンに分類されています。そのパターンは、刺激への過剰反応、刺激への過小反応(低反応・低登録、若しくは「感覚鈍磨」、感覚探求です。

さて、今号では「刺激への過剰反応」について詳しく取り上げます。この「刺激への過剰反応」は、一般的には「**感覚過敏**」という言葉で置き換えられます。刺激に対して過剰に反応してしまい、環境の変化や多くの人が気にならないような僅かな刺激も気になってしまうという状態です。

感覚過敏がある人は、そうでない人と比べ、より暑く、より寒く、より痛く感じる場合があります。さらに、多くの刺激を受け取りすぎること自体が、ストレス要因となることがあります。加えて、一般的には気にならない刺激を極度に怖がることのあるため、日常生活における困難さに直結することも多いと言われています。

過剰反応の例として取り上げられるものとして、運動会のピストル音や非常ベルが苦手、手つなぎを嫌がる、服のタグや上衣の首回りを極端に気にする、周囲が騒がしいと集中できない、時計やエアコンなど生活音が気になる、異常にまぶしがる、苦手な色の組み合わせがある、手がベタベタになることや濡れることを嫌がる、香水や芳香剤の強い匂いが苦手、極端に苦手とする味がある、味や食感が混ざり合うことが苦手、などがあります。

これらの反応には、基本的には周囲の大人が理解してあげて、次のように対応することが大切とされています。過敏の種類毎にいくつか例をあげます。

- ・ **聴覚過敏**: 不快な音から離れる、ノイズキャンセリングヘッドホンなどを使用。
- ・ **視覚過敏**: カラーフィルターやパーティション等の活用、当事者用に配慮されたノートの使用。
- ・ **触覚刺激**: 心地よい素材の服や物の使用を許容。
- ・ **嗅覚刺激**: 苦手な匂いの場所を回避、マスクで予防、周囲の協力。
- ・ **味覚刺激**: 無理に食べさせない、調子が良さそうなどに新しい調理法や食感を試させる。



お子さんの普段の様子を見て、もし、該当することがあるようでしたら、検討してみてもいいかもしれません。おたよりでは商品名などは載せませんでしたが、特別支援教室を利用している児童が使用して効果的だったものなどについては、詳しくご紹介できるとと思います。

2月のコミュニケーションタイムの主な学習予定

「サーキットトレーニングC」

体を動かす様々な活動を通して、粗大運動や微細運動の能力を向上させます。

今回は、子ども達に人気のカチカチキャッチャーがグレードアップして登場する予定です。

学習指導要領「自立活動」5・身体の動き (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること